

「地域とともにある学校づくりのためのPTA活動」

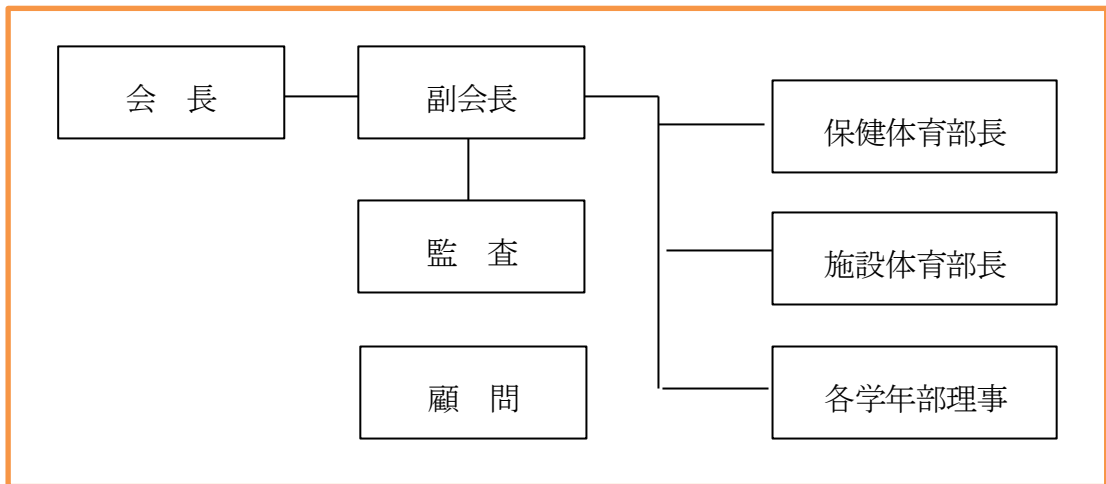
下関市立栗野小学校 PTA

1 学校地域の概要

本校は、下関市豊北町の北東部に位置し、全校児童7名、複式学級2クラスの極小規模校である。今年度は1・2・3年生が5名、5年生2名という低学年生児童に偏った学校となっている。

学校周辺を眺めてみると、地域の中央を流れる清流栗野川は、豊かな恵みをもたらし、また、青い海、澄んだ空気、緑の山並みに囲まれた豊かな自然環境に併せて、古い歴史・伝統を備え、勤勉で協調性もある豊かな人材を有した風土の中で、児童はのびのびと育てられている。保護者・地域・学校が一体となって児童を育てる温かい雰囲気がある地域である。

2 PTAの組織図



上記のような組織であるが、実際には4家庭で全ての業務を担っているのが現状となっている。

3 研究テーマについて

「地域とともにある学校づくりのためのPTA活動」

本校は、栗野地区の各種関係団体等との連携が深く、年間を通して地域と共に実施する教育活動が多くある。また、地域の学校に対する協力体制も確立されており、行事等への支援や環境整備の支援などに保護者のみならず地域の方々に意欲的な参加・協力をいただいている。こうした背景をもとに、保護者・地域と学校が一体となった教育活動が今後さらに期待できる状況にある。

これらの取組については、コミュニティ・スクールのコーディネーターと連携しながら、より学校の実態、児童の実態に沿ったものになるよう工夫している。こうして、地域連携型の学校づくり「あわのわくわくコミュニティ」としての体制を整えてきている。

こうした教育活動をさらに充実させ、児童のよりよい教育のあり方を学校とPTAが一

体となって考えるとともに、さらなる地域連携のためにPTAが成すべき役割を果たしたいと考え、このテーマを設定した。

4 活動内容

(1)「栗野駅をいこいの場にプロジェクト」の支援

ア プロジェクト開始に至るまで

地域と連携した教育活動が非常に充実した本校ではあるが、その多くは地域の方々が主体的に動き、少ない人数の児童たちが「していただいている」活動となっていた。こうした中で、「地域の方々に何とか恩返しができないか」という高学年児童の思いと、受け身的な立場であった児童に地域貢献をする機会を与えたいという教職員との思いが合致した。

高学年児童が提案したのは、地域の人が多く住む地区にあるJR長門栗野駅の待合室を整備し、地域の人々が気軽に立ち寄り、憩いの場にする、という計画であった。しかしながら、年度当初に駅を訪れてみると、掃除が十分にされていない駅舎内にはゴミが散乱し、壁や床、椅子の上は多くの鳥の糞で汚れていた。掲示物も適当に貼られ、何の飾りもない駅舎はとても皆が集まる雰囲気ではなかった。

イ 清掃活動の開始

そこで、まずは3・5年生児童による駅舎の掃除が始まった。週に1度の掃除がそのうちに2回、3回と回数を増やし、毎週末の下校時に1・2年生たちも参加する全校児童での掃除が習慣化した。そうした中、保護者が児童の朝の集合場所を駅前にするのを提案し、それからは毎朝の掃除が加わった。

機会を見て保護者もできる限り環境整備に加わるようにした。またPTAが環境整備のための様々な用具を準備し、児童の活動を後押しするようにした。

ウ 駅舎内の環境整備



JRの了承を得て、栗野小学校のことを知ってもらう掲示板も設けた。こ

こには 児童が作成した毎月の壁新聞や学校だより、児童の絵を飾るようにした。

また、自分たちの思いが先行することがないように、駅の利用客や地域の方々からのご意見を聞くためのアンケート用紙とポストも設置した。

すると、毎日のように児童への励ましの言葉やいろんなアイデアをいただくようになった。児童がそのお手紙に返事を書き、特設の掲示板に掲示することにし、こうして駅のポストを介して多くの方々と児童たちとの交流が始まった。



エ 地域への活動の広がり

児童の活動の様子が徐々に広まるようになり、地域の方々のご協力も得られるようになり、児童の掃除が行き届かない時に、そっと掃除をしてくれていたたり、花や素敵な飾りを持ってきてくださったりするようになった。また、駅に隣接するトイレをきれいに掃除したり、待合室の椅子の一つ一つに手作りの座布団を置いてくれたりする動きが出てきた。こうした状況を学校とともにPTAが見守り、時に支援するようにしてきた。

(2)「栗野っ子アートフェスタ」の支援

① フェスタ開催の企画

1学期の終わりに児童たちが考えたのが「アートフェスタ」である。昨年度、山口県学校美術展の最優秀校に選ばれた本校の児童たちは、絵を描くことが大好きである。そこで、自分たちの絵を駅に飾って多くの方々に見ていただくという提案から、駅を期間限定の小さな美術館にさせていただくイベントを企画することに至った。

また、ここでは、これまでお世話になった方々へのお礼として、学校で収穫した梅を使った梅ジュースや自分たちが採った青のりを使った青のりカステラをお客さんに差し上げることにした。さらには、児童が育てている新鮮な朝採れ野菜の即売会を考えた。野菜を育てるための費用に充てるためである。なかなか学校だけでは実行が難しいため、PTAがフェスタ運営に参加し、即売会で得た収入をPTA会費に入金し、教育振興費としてPTAが野菜栽培の費用を負担する形をとった。

② フェスタについての情報発信



アートフェスタのポスター掲示を児童が地域の方々をお願いして回った。児童ができるだけ多くの方々に顔を合わせてお願いすることにした



が、皆が掲示を快諾してくださった。PTAもこの活動を支援し、ポスター掲示を手伝った。学校のホームページでもポスターを紹介したが、これをダウンロードし、自主的に地区内に掲示して下さる方々も出てきた。地域が児童の活動を支援する空気の高まりを感じる出来事であった。

③ 駅の一斉清掃

フェスタを前に、児童が駅舎をさらにきれいにしたいと考えたが、低学年の多い7名の児童だけでは手に負えない掃除も多かったため、PTAとともに地域の方々に掃除の協力を呼びかけた。何人の方々が協力してくださるかが分からないまま迎えた一斉清掃当日、予想をはるかに超える30人以上の地域の方々が集まってくださった。こうして児童・PTA・地域の方々が一緒に汗を流し、駅舎の掃除を行うことができ

た。もちろん、この掃除のことを知ったJRからも応援が駆けつけた。

おかげで駅舎は見違えるほどきれいになり、気持ちよくフェスタを開催する準備が整った。フェスタ当日の駐車場を準備するため、私有地を借りて草刈りをしてくださる方も出てきた。



④ アートフェスタ当日

(平成28年7月19日(火) 11:00～11:45)

当日は早くからフェスタの準備を駅舎内で行った。全家庭が参加し、いろいろな準備物を持ち寄って早い時間帯から開催の手伝いをした。

小串警察署からは、フェスタ当日の交通整理の協力を申し出ていただいた。また、下関市教育委員会からも応援に駆けつけてくださった。こうして様々な準備が整い、無事フェスタを開催することができた。



ウ. アートフェスタの主な内容

- ① 児童の絵画作品の展示と解説
- ② 児童が作った梅ジュース・青ノリカステラのもてなし
- ③ 児童が育てた新鮮野菜市
- ④ ALTとのお別れ会
- ⑤ 合唱「ふるさと」



エ. 取組の工夫

- * PTAが学校と地域との間をつなぐ役割を担うとともに、CSコーディネーターとの連携を密にし、地域の方々の思いや願いを聴いたり、活動への参加の呼びかけに協力していただいたりした。
- * 活動の概要や、フェスタのポスターを学校のホームページ上で紹介するようにした。またPTAが率先して地域内での情報発信を支援した。
- * 絵画展示内容・展示方法・野菜販売についてJR長門市駅長と現地で確認した。
- * 梅ジュース・青のりカステラの調理にあたっては、食推さん・元栄養士さんへの協力を要請した。また、下関市保健所生活衛生課から了承を得た。
- * JR長門栗野駅での開催については、当日の混雑の可能性を踏まえ、小串警察署に届を出した。駐車場として近くの空き地の利用許可を得た。万が一に備え、小串警察署員に現地勤務をするよう依頼した。

⑤ アートフェスタを終えて

地域の方々からの「次回もぜひ!」という多くの声を受け、アートフェスタ第2弾を企画し、11月末に実施した。PTAはこの活動にも全面的に協力した。このアートフェスタにも多くの方々に参加していただき、大いに盛り上がった。



特に第2弾では、地域の方々との「対話型鑑賞」や、「ともにつくる」ことを通したアートコミュニケーションを大切にされたため、児童の対話力育成につながる豊かな造形活動の実践としても意義あるものになった。

このプロジェクトは現在も進行中である。児童がこうして主体的に地域に関わる活動を通し、児童の社会への参画意識を高め、ふるさと栗野を愛する心を深め、そして、栗野地域の方々とのつながりをさらに深めることができることをPTAとしても期待する。

長門栗野駅という小さな駅が、学校と地域をより密につないでくれた。この小さな駅



が、児童たちの素敵なアイデアで、学校に、そして地域に新たな元気をもたらしてくれたと考えている。また、駅のポストを通じて、7名の児童が、多くの「人」とつながることができている。いろんな人々の温かい心にふれ、児童たちの心がさらに豊かに育っていることを実感している。

小さな学校の底力をアピールすることもでき、PTAとしてのチームワークの向上、そして大いにモチベーションを上げる機会となった。

なお、このアートフェスタで披露した児童の作品の多くは今年度の山口県学校美術展覧会で入賞し、昨年度に続き、今年度も栗野小が絵画の部で県最優秀校を受賞するに至った。



(3) 「ふるさとCM制作」の支援

児童が「栗野駅を憩いの場にプロジェクト」の一環として、JR長門栗野駅をPRするふるさとCMを制作することを考え、CMに出演するエキストラ募集を呼びかけた。運動会の閉会式後のスピーチや、地域内でのポスター掲示の呼びかけ、地域の方々への個別の呼びかけも行った。PTAもこの活動に協力し、エキストラ参加の協力要請や、当日のエキストラとしての参加を行った。



撮影当日には多くの方がエキストラとして参加してくださり、CM撮影は大変盛り上がった。もちろんPTAとしてもこの撮影に参加した。



児童が当日撮影した映像に、その前後に撮影したいくつかの映像を加え、担任とともにCMの編集を行った。このCMはTYS（テレビ山口）のふるさとCM大賞に応募したが、見事グランプリを獲得した。授賞式には全児童、全家庭の保護者、地域の方々も参加した。このことが地域の方々の栗野小への愛着を一層深めたと考える。

(4) 「青空市場」の企画・運営

栗野公民館と合同で開催する「秋祭り」では、児童の学習発表や栗野駅でのプロジェクトについての発表、地域の方々による出し物に加え、午後にはPTAが主催する「青空市場」が実施された。ここでは、4家庭が手分けをして集めたバザー品の販売やドーナツ販売が行われた。PTAが栗野地区全体



に呼びかけ、各自治会長の協力を得て集めたバザー品販売には約120名の方が参加して盛り上がった。**販売活動そのものよりも、地域住民の貴重な交流の場となった。**

栗野小PTAは、「子どもを育てる」ためのバザーを大切にしており、今回のバザー品集めや品物の運搬、レジ業務に加え、ドーナツ販売にも全校児童が協力した。こうして児童が金銭感覚を身に付けたり、いろいろな方々とのやりとりの中で、日頃なかなか体験できないコミュニケーション活動の場をもつことができた。



(5) 大運動会の運営支援

児童数の少ない本校では、毎年の運動会を地域にある体育振興協議会と合同で開催する「地域の運動会」としている。その準備の多くを栗野小PTAが保護者総出で手伝っている。この大きなイベントを開催するための保護者一人あたりの負担はかなり大きいものである。しかし、一人ひとりの保護者が運動会をみんなで成功させるという同じベクトルをもって地域の方々と共に業務に携わった。こうして、多くの地域の方々を迎え、盛大に運動会当日を開催することができた。運動会では、7名の児童だけではできない競技をPTAや中学生が支援し、大いに盛り上げた。



(6) 地域の方を招いた講演会の支援

ア よしながこうたく氏講演会（ワークショップ）

県教委より、本校での「給食番長」の著者である絵本作家よしながこうたく氏のワークショップ開催の依頼を受け、PTAと学校が地域への参加呼びかけを行った。当日は講師が児童への絵本の読み聞かせを行った後、児童らと一緒に「栗野小のご当地キャラ」を創り上げる活動を取り入れたワークショップを行った。これには全家庭の保護者と地域の方々が参加し、ワークショップを盛り上げ、楽しい会をもつことができた。



この会で児童がこうたく氏と創作したキャラクター「をえさきいさん」のポストカードがこの度、商品化されることになった。栗野小学校校舎や7人の栗野っ子たちも描かれており、PTAとして大変盛り上がっている。

イ 国際理解講演会（JICA中国ワークショップ）支援

本校がJICA中国より推進員を講師に迎え、開催した世界を知るワークショップに全家庭の保護者が参加した。ここでは、いろいろなアクティビティを通して世界の現状や人権について分かりやすく学ぶことができた。



(7) ホームページでつながる学校とPTA

栗野小学校のホームページは、全家庭数4の極小規模校としては希に見る閲覧数であり、1日に約400の閲覧があり、総数は現在50万カウントを超えている。

ほぼ毎日更新されることと、内容の面白さが人気となっているが、何よりもホームページ運営をPTAが後押ししていることが大きな原動力となっている。少ない教職員の本校で十分な記録写真を確保することが難しい場合には、保護者が積極的に写真データを提供することも多い。

5 成果や課題

栗野の子どもたちが育っていくこれからの時代には、情報化・グローバル化など急激な社会的変化が予想される。今以上に情報が世界中を飛び交い、また、人や物が国境を越えて行き来する時代になり、さらに、人工知能が進化して、今ある職業の多くはなくなるのではないかと、とも言われている。そうした中、「未来の創り手」となる子供たちにとって必要な資質・能力を今のうちに育てておく必要がある。

そのために、学校が進めている「地域をフィールドに学ぶ教育活動」にPTAが全面的に協力し、できる範囲での支援を続けている。ここでは、学んだことをもとに地域社会に関わる活動を意図的に仕組み、課題解決のための追究活動を通して、「学んだこと」を「深い学び」にしていくことを大切にしている。これらの活動の中で子どもたちは「ふるさと」に対する意識を高め、愛着を深めており、これは、グローバル化が進む時代だからこそ育てたい「国際人としてのアイデンティティ」につながるものと考えている。

こうした活動を進める上で大切なことは、子どもを育てるために保護者と学校の教職員が同じベクトルで臨むことである。子どもの豊かな学びの場づくりのために、学校と地域とを結ぶ大切な役割を今後もPTAが担っていききたい。保護者どうしの良い関係づくりが子どもどうしの良い関係を作る。様々な活動に常に保護者が参加する中で築かれる関係もあると思う。

4家庭で構成される栗野小学校PTAは、とても小さなPTAである。しかし、「栗野小学校」のブランド化に向け、大規模校にも負けないモチベーションをもち、今後も学校と共に子どもたちをよりよく育てる教育活動を推進していきたい。

